

たけびし (コード 7510・大証 2部)

業績推移(連結) (Q = 四半期。予想数値は会社発表分。配当性向は連結ベース。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率	利益	伸び率	純利益	配当		
09.3 : 2Q	34,045	+1.3	1,222	+46.9	47.1	8.0	17.0	3.6
10.3 : 2Q	20,185	-40.7	272	-77.7	11.9	5.0	42.0	1.3
09.3	61,114	-12.9	1,607	-22.9	51.9	16.0	30.8	2.6
10.3(予)	47,000	-23.1	470	-70.8	17.0	10.0	58.9	1.0

幅広い産業分野と大手優良企業中心のユーザー構成が強み

特色...京都・滋賀を主力地盤(09年3月期の同地区の売上構成比率47.2%)に、産業用電機・電子機器などを幅広く取り扱う、三菱電機の総合代理店を主とした“技術商社”。単に製品を提供するだけでなく、技術ノウハウ、システムデザイン、ソフト開発を手がける“技術商社”を志向。電気機器をはじめ、精密、機械、輸送、建設、電力、公共、商社など、幅広い産業分野にわたる展開力と、特色ある大手優良企業を中心とするユーザー構成は同社の強み。

今期の第2四半期は大幅減収減益に

FA・デバイス事業が大きく売上減...09年3月期の第2四半期(4月1日~9月30日)は、FA・デバイス事業の大幅な落ち込みなどにより、売上高は前年同期比40.7%減、経常利益が同77.7%減と、前年同期から一転して大きく業績が落ち込んだ。事業別売上は、FA・デバイス事業:126億2,600万円(前年同期比48.7%減)、社会・情報通信事業:75億5,800万円(同19.8%減)。FA・デバイス事業では、液晶・電子機器関連設備需要減に伴って産業機器システム部門が81億6,100万円(同44.7%減)に、ユーザーにおける在庫・生産調整の影響で半導体・デバイス部門も44億6,500万円(同54.7%減)へと、ともに大幅な減収に。社会・情報通信事業では、前年同期の工場向け大型重電設備需要の一巡から社会インフラ部門が36億2,100万円(同33.9%減)となったものの、携帯電話や情報システムの堅調な情報通信部門は39億3,600万円(同0.3%減)と微減収にとどまった。

10年3月期の通期も減収減益見込み

底打ちから下半期回復傾向に...2010年3月期の下半期は、売上高268億1,500万円(前年同期比0.9%減)、経常利益1億9,800万円(同48.6%減)の見通しと、底打ちから回復傾向に。通期では、売上高が09年3月期比23.1%減、経常利益は同70.8%減へ。事業別の通期売上予想は、FA・デバイス事業:289億円(09年3月期比31.2%減)、社会・情報通信事業:181億円(同5.4%減)。FA・デバイス事業では、下半期にFAシステムを中心に堅調に推移しそうな産業機器システム部門が188億円(同26.3%減)、車載・産業向け需要の回復が見込まれる半導体・デバイス部門は101億円(同38.7%減)となりそう。社会・情報通信事業では、ビル設備などの需要が増えそうな社会インフラ部門が102億円(同7.9%減)、携帯電話に加えて情報システムも堅調な情報通信部門は79億円(同2%減)へ。年間配当は前期実績から6円減配し10円を予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。